



五小だより

ホームページ URL <https://www.kodaira.ed.jp/05kodaira>

アドレス gakkou@05.kodaira.ed.jp

令和8年9月1日発行

9月号

小平市立小平第五小学校

「挑戦する心」と「認め合う心」

校長 屋代 弘一



42日間の夏休みが終わり、こどもたちの元気な声が五小に戻ってきました。

夏休み期間中には、大きな事故もなく、一人一人のこどもたちが、新学期を迎えることができました。これも保護者・地域の皆様のこどもたちへの温かなご支援の賜と心より御礼申し上げます。

2学期は、学年の中で一番長い学期であり、1学期を「しっかりと土台をつくる」時期と考えると、2学期は、その土台の上に、「花を咲かせ、豊かな実を实らせる」時と考えます。

さて、日々の学校生活の中で、こどもたちは、実に様々な表情を見せてくれます。学習に真剣に取り組む顔、友達とのかかわりの中で見られる笑顔、そして時に何かに失敗して少し悔しそうにしている表情。そのどれもが、こどもたちが一步一步、成長している姿だと思います。

学校という場所は、単に知識を学ぶだけの場所ではありません。「人とかかわる力」を育み、「自ら考え、行動する力」を培う場所です。そこで、五小では、こどもたちの「挑戦する心」と「認め合う心」を大切にしていきたいと考えます。

現代の社会は変化が激しく、予測困難な時代と言われています。そのような時代を生き抜くこどもたちに必要なものは、正解のない問いに対しても、自分なりの答えを見付け出そうとする姿勢と、失敗を恐れずに挑戦するという経験です。こどもたちが、「やってみたい!」という意欲をもったとき、私たち大人は、「やってごらん」と背中を押してあげたいものです。そしてたとえ上手くいかなかったとしても、こどもたちが、「なぜだろう」、「次はどうすればいいのだろう」と考え、次の挑戦への意欲を高めてほしいと思います。

また、その挑戦を支えるのが、互いを「認め合う心」です。一人一人のこどもたちが異なる個性や考え方をもっています。自分と違う意見に出会った時に、「そういう考え方もあるんだね」と受け入れることができる。友達の頑張りに気付いた時に、「すごいね」と素直に拍手をおくることができる。そういった温かい人間関係があるからこそ、こどもたちは安心して自分のよさを生かし、新たな挑戦に踏み出すことができます。

2学期には、運動会などの大きな学校行事も実施いたします。日常の学校生活や学校行事を通して、こどもたちの「挑戦する心」と「認め合う心」を大切に育てていきたいと思ひます。

こどもたちの日々の学びが充実するよう、2学期も教職員が一丸となり、教育活動を推進してまいります。保護者、地域の皆様には、今学期も五小のこどもたちのために、引き続き、本校の教育活動にご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

9月の生活目標

時間を守って生活しましょう。

夏休みが終わり、2学期がスタートしました。休み期間中はゆったりとした時間の中で、のびのび過ごした子もいると思います。9月は学校時間に慣れるまで、少し戸惑うこともあるかもしれません。学校は大勢の仲間と過ごす場所です。家で過ごす時間は自分や家族だけの時間ですが、学校は友達と時間を共有する場です。時間を守るとは周りと協調して過ごす力の基本になります。さらに、周りからの信用につながることも意識させながら、時間を守って学校生活を送ることができるように指導していきます。

(生活指導部)



9月行事予定

月	火	水	木	金
8/31 夏季休業日（終）	1 始業式 通常時程4H	2 給食開始 身体計測（5） TGG 立川（6）	3 通常時程4H 身体測定（6）	4 通常時程4H 身体計測（4） 避難訓練①
	（全）12：30	（6）16：00	（全）13：30	（全）13：30
7 全校朝会 身体計測（3） 委員会 （卒業アルバム撮影）	8 イングリッシュキャラバン（5） 身体計測（2）	9 身体計測（1） 研究授業（4）	10 身体計測（さ）	11
		（4）14：30		
14 全校朝会 クラブ （卒業アルバム撮影）	15 防災教育（4）	16 特別時程 4H 研究授業（6-1）	17 音楽朝会 図書館見学（2） 町たんけん（2）	18 飲酒喫煙防止教室（5）
		（全）12：50 （6-1）14：45		
21 敬老の日	22 休日	23 秋分の日	24 たてわり班活動	25
			14：30（3）	
28 全校朝会 5時間授業（1） 生活科見学 @航空公園（1） 認知症サポーターキャラバン（4）	29 ブラインドサッカー （4）リモート	30	10/1 都民の日 オーケストラ鑑賞 （3～6）⑤⑥	2 5時間授業（1） 生活科見学予備日（1）
14：30（1）				14：30（1）
5 委員会	6 たてわり班活動	7 事前検診（さ） 三中 職場体験（～9日） 研究授業（6）3・4組のみ	8 宿泊学習（さ）	9 宿泊学習（さ）
		（6-3・4組）14：40		

いつもランドセルにマスクを入れておいてください

ひと月に一回程度、給食当番が回ってきます。その際は、マスクを着けて当番の仕事をする必要があります。また、体調がすぐれないときや欠席児童が多いときなどには、感染拡大予防のためマスクの着用をお願いする場合があります。そのため、ランドセルの中に常にマスクを5枚程度入れておいてください。

なお、学級にもマスクを用意していますが、そこから借りた場合は新しいマスク（個別包装またはチャック付きビニールに入れて持参するなど、衛生的な方法で持参したもの）の返却をお願いします。

五小の取組紹介コーナー



『5年生 移動教室』

6月29日(月)30日(火)に、ハケ岳移動教室へ行ってきました。1日目は滝沢牧場にて乗馬や豚へのえさやり、トラクター遊覧車体験などを行いました。牧場の様子を通して、標高が高い地域の産業について、社会科で学習した内容をより深く学ぶことができました。夜は雨天のため、体育館でキャンドルファイヤーを行いました。みんなで火の女神を呼ぶための踊りやマイムマイムなどを、汗びっしょりになるまで踊りました。2日目はハケ岳ふれあいセンターで、インストラクターの方と一緒に植物や昆虫の観察、自然アート体験などを行いました。理科で学んできたことを、確かめる機会となりました。

1泊2日という短い時間でしたが、こどもたちが自主的に約束や時刻を守って行動している姿を見ることができました。できたことを今後の生活にも生かしていき、来年の移動教室がさらによりよいものになるよう、指導していきます。

第5学年 学年主任()

『3年生 灯りまつり』

今年も、3年生がこの地域で大切にされてきた地口行灯を飾る風習「灯りまつり」に参加させてもらいました。まずは、言葉の学習から始め、ことわざや格言から面白い句と絵をデザインし、一人一人が心を込めて地口行灯(じぐちあんどん)を作りました。青少対や保護者の皆様にもご協力いただきながら、和紙と木材と筆を使って自分の手で作ったので、どの子も愛着のこもった作品となりました。校内でも学年一斉に体育館で点灯をし、互いの行灯を見合い、行灯から光るほのかな灯りと地口に見ていた人も微笑んでいました。



8月1日には、「小平グリーンロード灯りまつり」が行われました。当日は、光が丘公園でもいざ点灯というところで雨に見舞われ、楽しみにしていた地域のお祭りへの参加は残念なことになってしまいましたが、小平に伝わる伝統を知り、これからもその思いを大切にしていこうとする気持ちが培われました。

第3学年 学年主任()

『算数 ベーシックドリルについて』

本校では、東京都教育委員会が作成している、各教科の基礎的な学習内容を身に付けるためのドリル「東京ベーシックドリル」の算数科の問題に、2年生から6年生の児童が取り組みます。複数回行い、児童が苦手としている学習内容を把握し、指導法を改善し、確かな学力を培うために活用しています。今年も5月に第1回を行いました。全体的には、低学年ほど正答率が高く(8割以上)、学習内容が複雑になる4年生以上になると6割5分くらいに推移します。特に各学年で注力して学習に取り組みたい学習内容は、以下の通りです。(5月は前学年の内容の問題に取り組みました。)

2年生…かけ算九九、単位換算 3年生…小数の仕組み、分数の計算 4年生…複雑な計算、角度、作図

5年生…面積、作図、割合 (☀️今回は6年生の学習内容の問題には取り組んでいません。)

今後、学校全体で授業改善に取り組み続け、確かな学力の育成に努めていきます。 算数少人数担当()

『校内研究の様子をお届け』

1学期に行った2つの研究授業について紹介します。

①2年生 「あったらいいな、こんなもの」

あったらいいなと思う「夢の道具」を考え、絵に表しました。それを見て2人一組で、その絵がどのような道具なのかたくさん質問をして、友達の「夢の道具」を詳しく知ろう!という授業でした。最初は、一言二言で終わっていた質問が、回を重ねるごとに詳しく何回も質問できるようになったり、会話を続けられるようになったりしました。みんな「質問名人」になることができました!



②6年生 算数科「オセロで算数!」

これまで国語科で身に付けた、「話したり聞いたりする力」を算数にも生かしていく、という実践でした。6個のオセロから任意に5回ひっくり返し、5回目目が白か黒かを先生が当てる手品のような出来事から始まりました。その仕組みを考えようと、自然と対話が生まれます。隣の人や後ろの人と色々な考えやパターンを考えて、発表していききました。しっかり発表を聞いたり、順序よく分かりやすく伝えたり、相手の目的と意図を考えた発表をしたりと、これまでの力が存分に発揮された授業となりました。



研究主任()

研究主題:自分の思いや考えをもち、互いに伝え合う児童の育成
～国語科の授業づくりを通して～